

O-CUBE

LIVING DESIGN CLUB PROFESSIONAL

オーキューブ2005年5月1日(毎月1回1日発行)5月号
編集・発行/リビングデザインセンターOZONE/リビングデザインクラブ(プロフェッショナル)
〒163-1062東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワー
phone.0120-020-586 fax.03-5322-6635 URL <http://www.ozone.co.jp/>
Volume 120 定価500円(本体477円)

5

Creator's Report Stefan Diez
Special Feature Harumi Tsuda





表紙：バイエルン国立博物館で行われたインスタレーション（2004年6月）。10m²の大テーブル上空にカトラリー「Tema」を吊るしたモビールが揺れ動く。
P2：調理台から熱々を食卓へ、クッキング&サービングの新しいスタイルを提案するセット「Genio」。とカトラリー「Tema」（クロマガン製）。今年の「IFデザイン賞」及び「レッド・ドット賞」を獲得。

伝統を未来に繋ぐ デザイン・マイスター シュテファン・ディーツ

取材・文=小町英恵

「日本におけるドイツ年」が全国規模で展開されている。来年の春までドイツ・デザインの輪郭も様々な角度から照らし出されることだろう。今のドイツの若いデザイン・シーンでも「現代デザインの伝統を確かに受け継いで、自分のルーツを発掘調査しながらデザインしている」と正面きって断言するクリエイターがシュテファン・ディーツだ。「一般に“ドイツ的”というと“堅苦しい”“重々しい”“憂鬱だ”とか、どこか否定的なニュアンスがある。でもどんなに欠点だけでも愛おしくて仕方ない人間っているよね。ドイツもそんな人間に似ている」。ドイツのモダン・デザインはナチス独裁で退廃の烙印を押され、バウハウスに帰するその伝統は一度は切断されてしまったが、ディーツの姿勢からは“ドイツ(ジャーマン)”という概念に新しい肯定的なニュアンスが宿るまで格闘し続けるんだ、という意気込みが伝わってくる。

ディーツはまず女流指物師・マイスター、ウアズラ・マイアーの工房で家具造りの修業に励むが、

ここで友達になったインド人の世話でボンベイやポーナで家具をデザインしながらインドの家庭生活と職人文化を内側から体験する。それはどんなデザイン・ワークショップよりもかけがえのない貴重な経験だったのかもしれない。「彼らからマテリアルと自分の関係作りの大切さを教示されたんだ。インドの職人は傍から見ると精密さに欠けマテリアルを乱暴に扱っているかのようだけど、本当は心から愛情がこもっていて優しさに満ちあふれているんだ」。ディーツの場合もマテリアルと自分の手との接触を通してのみデザインが熟していく。現在開発中のプロダクトは、ガラスと磁器という直接には接合不可能な異素材をプラスチック素材を仲人役に使ってコンビネーションするもの。称号が許されるなら、ディーツはデザイン・マイスターと呼びたいくらいだ。

エキシビション・デザインの分野でも独自の冴えた感覚を見せる。ローゼンタール社創立125

(1) (2) 「ローゼンタール・デザイン・アワード2004」展の展示。ミュンヘンの美術館ピナコテーク・アル・モデルネのロータンド最上層に、バルコニー用フラワーボックスに似た展示ボックスを設置。ボックス内の左右の鏡面も視覚効果満点。(3) 曲げ木の椅子「Friday」(2003/Promosedia)。ベスト・ニュー・ファニチャー・デザイン賞(Wallpaper誌)。(4) テキスタイル構造にポリスチレン粒を詰めた超軽量のソファ「COUCH」(2005/Elmar Floetotto)。今年のケルンの家具フェアで最優秀マテリアル・イノベーション賞受賞。(5) バケツからアイデアが膨らんだ収納用スタッキング・ボックス「BigBin」(2004/ Authentics)。(6) ブイ(浮子)形の液体ソープ・ディスペンサー「BUOY」(2004/ Authentics)。職人の使う油差しの構造を応用。写真全て©Stefan Diez



Stefan Diez



周年記念のデザイン・アワード展ではドイツの夏の街の風物詩が新解釈されていた。家の窓やバルコニーに真っ赤なゼラニウムが元気に咲き乱れる風景、そのバルコニーの手摺に掛けるフラワーボックスのシステムが現代美術館のモニュメンタルなロータンド建築に応用されたのだった。名窯ニュンフェンブルクの磁器人形と三菱エレクトロニックの産業ロボットを引き合わせたこともあった。ロココ時代からの職人芸とハイテク、矛盾しそうなクオリティーがディーツのデザインでも歩み寄る。またとても繊細なニューモアのセンスが一振りされたりもする。また、ミュンヘンで恒例のイベント「デザイン・バルコニー」の際に初の個展ともなったインスタレーションでは、カトラリー「テマ」が天井からモビール構造に吊るされて展示された。アイデアの起点は、ポケットに簡単に入ってしまうナイフやフォークの盗難予防が既に展示方法にデザインされていることだった。スプーン一つでも触ったり引っ張ったりするとモビールのバランスが崩れて誰もがギクッとす。

creator's report

Stefan Diez (シュテファン・ディーツ)

1971年フライジング(ドイツ)生まれ。指物師の修業をして1994年インドへ留学、現地の家具工房で働く。帰国後シュトゥットガルト芸術アカデミーでインダストリアル・デザインを専攻。リチャード・サッパ、コンスタンティン・グルチッチのアシスタントを経て2002年6月ミュンヘンにスタジオ開設。オーセンティクスやローゼンタールとのプロジェクトでデビュー以来新人賞を連続的に受賞するドイツ・デザイン界のホープ。www.stefan-diez.com



(2)

(5) (6)